



被害対策



餌付けの禁止・誘引物の除去

アライグマに限らず、野生動物に餌を与えることはやめましょう。繰り返して出てくるようになり、人なれが進んで被害が増えます。繁殖率も上がり、生息範囲を拡げることもつな갑니다。



無意識の餌付け

生ゴミや収穫しない作物などを放置しておく、餌付けと同じことになります。撤去できる物は取り除き、できない物は囲うなど防護しましょう。



防護柵

ネット柵や金網柵はよじ登られてしまうので、電気柵が効果的です。地上から10 cm間隔で、3～4本柵線を張りましょう。そのほか、電気柵とトタンの組み合わせや「獣堀くん」も、高い効果が期待できます。

電気柵+トタン

電気柵

ワイヤーの間隔を5cmにして2～3本張ります。

トタン

下部10 cm程度を地面に埋め込みます。



トタンでもぐりこみを防止し、登ったところで、感電させます。

らくらく 楽落くん 埼玉県開発：中型動物農作物被害防止柵

電気柵

ワイヤーの間隔を3～5cmにして1本張ります。

ネット

幅33cmの楽落ネット(又はトリカルネット)を通電しないグラスファイバーポール等で張ります。



登るのが得意な習性を利用して感電させます。低いので圃場への出入りもまたいで入れます。電気柵用防草シートなどの組合せで雑草による漏電は防止できます。



民家侵入防止

春から初夏は、出産や育児のため、屋根裏などへの侵入が多くなります。建物の隙間をできるだけふさぎましょう。

侵入されたら、爪あとなどで侵入ルート特定し、アライグマがエサを探しに外に出て行ったのを確認してから出入り口をふさぎます。また、その周辺で捕獲を試みるのもよいでしょう。



屋根の上を移動する親子



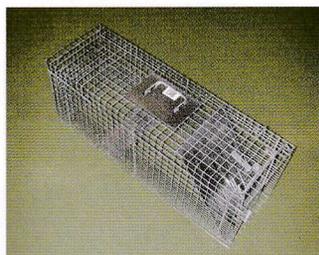
屋根裏につながる隙間



捕獲

アライグマは、放っておくと分布を拡大して、さらに問題を起こします。積極的に捕獲し、地域からの排除をめざす必要があります。

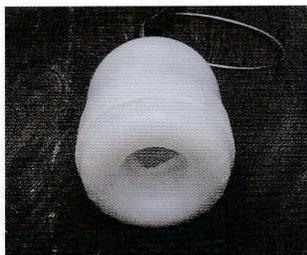
箱わな



中に餌を置き、誘引された動物が入ると出入口が閉まる仕掛けです。動物を傷つけることが少なく、特殊な技能がいらないもっとも一般的なわなです。



エッグトラップ



わなの中のエサを取り出そうとして、アライグマが手を入れると仕掛けが作動し手首がくくられます。誤って他の動物が捕まりにくいのが特徴です。



※捕獲には「捕獲許可」が必要です。

鳥獣保護管理法に基づく有害鳥獣捕獲と、外来生物法に基づいた捕獲ができます。詳細は、市役所・町役場にお問い合わせ下さい。